

# 経営比較分析表／団体全体（平成30年度決算）

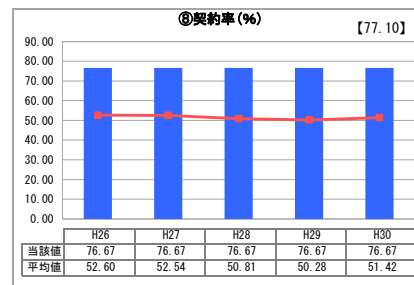
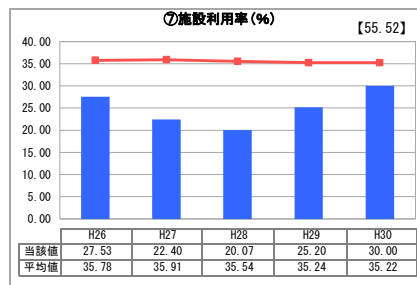
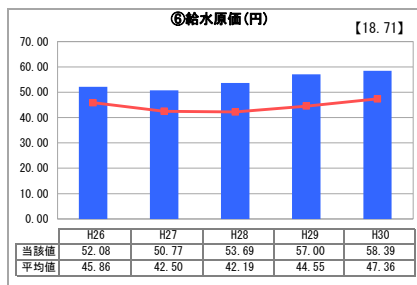
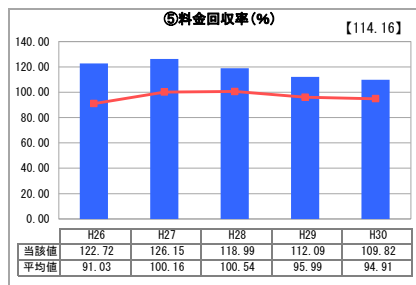
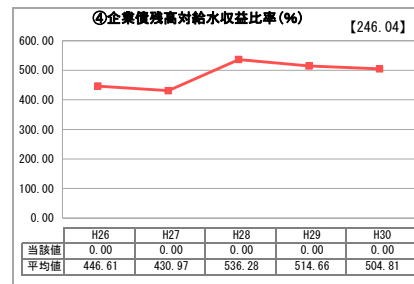
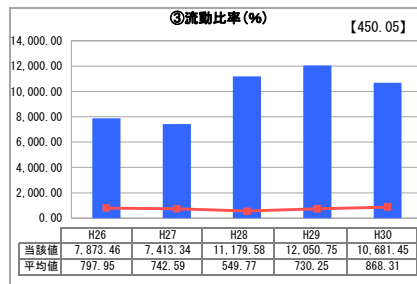
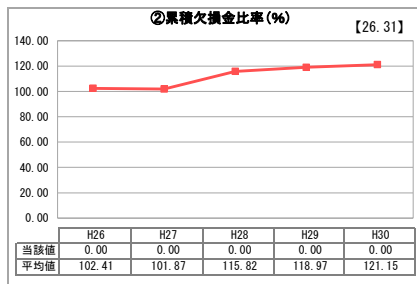
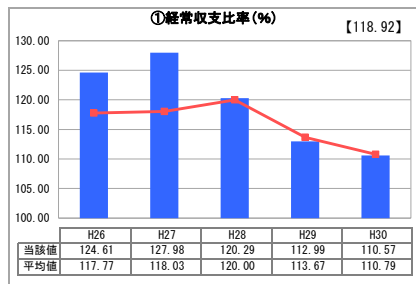
茨城県 笠間市  
【事業概要】

| 業務名       | 業種名         | 現在配水能力(合計)(m <sup>3</sup> /日) | 類似団体区分                  | 施設数    | 1日平均配水量(m <sup>3</sup> ) |
|-----------|-------------|-------------------------------|-------------------------|--------|--------------------------|
| 法適用       | 工業用水道事業     | 1,500                         | 極小規模                    | 1      | 450                      |
| 資金不足比率(%) | 自己資本構成比率(%) | 給水先事業所数                       | 契約水量(m <sup>3</sup> /日) | 管理者の情報 |                          |
| -         | 99.4        | 3                             | 1,150                   | 非設置    |                          |

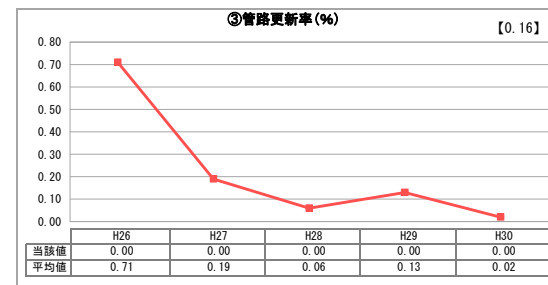
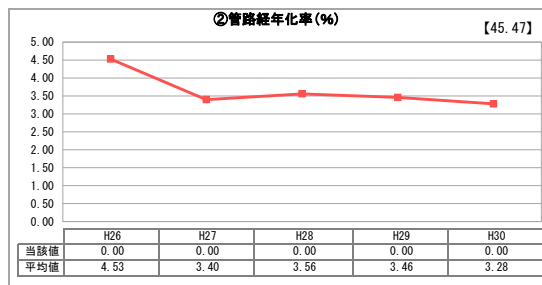
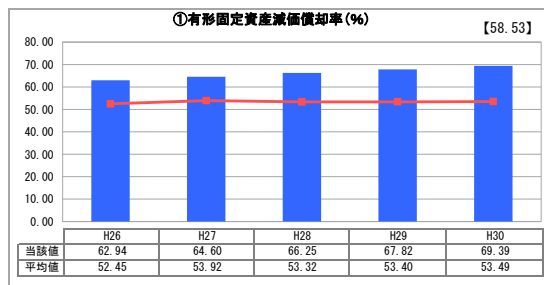
**グラフ凡例**

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 平成30年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は、100%以上となっており健全性を保っているが、施設の修繕等で経常費用が年々増加しているため、計画的に修繕を行うていくことで、費用を平準化していくことが必要となる。  
 ②流動比率は、類似団体と比較しても高く、短期債務に対する十分な支払能力がある。  
 ③料金回収率は、100%以上となっており、給水収益に必要な経費を賄えている状況になっている。今後も100%以上を維持するために、経常費用の削減に努める。  
 ④給水原価は、経常費用の増加に伴い上昇傾向にある。類似団体と比較しても高いため、維持管理費の適正化に努める。  
 ⑤施設利用率は、一日平均配水量の増加により上昇傾向にあるが、類似団体と比較すると低いため、施設の更新の際には、最大稼働率や負荷率等も含めて適正な規模となるようにする。  
 ⑥契約率は、類似団体と比較しても高くなっているが、今後は給水先事業者と契約水量の増加を働きかけて、契約率を増加させるよう努める。

### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、年々増加傾向にあり、類似団体と比較しても高いことから、更新を促す必要があり、設備が多くなっているため、計画的に更新を進める必要がある。  
 ②管路経年化率は、現在では法定耐用年数を迎えている管路がないため、0.00%となっているが、将来的には更新の必要性があるため、管路以外の施設も含め計画的に更新を進めることにより、費用を平準化し安定した経営に努める。

### 全体総括

経常収支比率や、料金回収率は100%以上になっており、流動比率も高いことから現状では安定した経営ができている。  
 さらに安定した経営ができるよう、費用の削減に努めるとともに、給水先事業者と契約水量を増加するよう働きかけを行う。  
 今後は施設や管路が法定耐用年数を迎えることにより、多くの更新費用が必要となるため、老朽化の度合い等により、優先順位を検討することにより、年度ごとの費用が偏らないよう更新の計画を行う。